

事業所名	グループホーム 邑久幸ホーム
日付	2008/11/12
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	訪問介護員 介護支援専門員 看護師
自主評価結果を見る	リンク
評価項目の内容を見る	リンク
事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります!)	※

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「心身にどんな障害があっても、人としての尊厳と人権、自由と普通の生活が保障される介護を目指します。又、運営の基本として入居者が主人公を貫きます。」この運営理念を基に入居者一人ひとりに合った生活環境の中でゆったりした自由な日常が営めるよう支援しています。安心してホームで生活していただき残存機能やプライドを尊重し、食事作りや掃除など、スタッフが家族の一員のように、ふれあいを大切にケアでした。民主的な運営に徹し、地域に開かれたオアシスを目指して活動している感じが感じられました。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 一人ひとりの生活ペースを尊重し、自室の方が良い人、リビングで皆と一緒にの方が良い人など、その人に合った場所作りをしています。冬場にはリビングのこたつで花札やトランプをしたりして、家庭的な雰囲気の中で団らんできるように努めています。調理・家事 (炊事・洗濯・買い物)・趣味活動 (お茶席・書道・絵手紙・歌声喫茶) をとおして、一人ひとりの興味や感性になじんだ取り組みを行っています。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人のできることに配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

1. 評価結果の概要

講評
全体を通して (特に良いと思われる点など) 事業主が「企業の業績を地元へ還元したい」と言う思いから開設したグループホームで、奉仕の精神のもと地域に根ざした運営がなされています。ホーム長、主任、管理者が専任で業務に当たっており、運営の安定化が図られています。開設以来、管理職・現場職員とも交代が少なく、「馴染みの顔で、馴染みの介護」が行われており、穏やかに暮らしている様子が窺えました。基本を大切に指針を基に、「バリエーションケア」「パーソンセンタードケア」に取り組み、認知症への理解や対人援助技術の向上に努めています。記録のための記録ではなく、現状に即した書類が整えられ、分かりやすく整理してありました。
特に改善の余地があると思われる点 これからも、地域との交流を深めて更なる前進をされ、開かれたグループホームに発展されることを期待いたします。

III ケアサービス (つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か トイレの内側に暖簾を設置しています。車椅子利用の方の利用時、扉が開いても外部から見えないようにと配慮してプライバシーの保護ができています。スクリーンを活用して、眠っている方・作業中の方への視線集中を避ける事でストレスを感じさせない工夫がされています。買い物・喫茶店利用時には支払いを個々で担当し、自発的行動の見守りケアが行われています。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か 各種会議を行い、報告・連絡・相談が密接に行われており、内部の話し合いのみではなく、外部研修や協会加盟で連携・情報収集が行われています。常に質の向上に取り組んでおり、問題発生時への対応も全職員で取り組んでいる様子を感じました。		